

日曜は歌声で笑顔

大館のレストラン



「さあ、にっこり笑って」。立って声を掛けながら合唱をリードする工藤さん(中央)

大館市内のレストランで毎週日曜日、見ず知らずの人々が集まり、軽食をとりながら合唱を楽しむ「うたごえ喫茶」が開催されている。引きこもりがちだった人が笑顔を取り戻すきっかけにもなっており、進行役を務める大館市早口の工藤「子さん(50)は「面識がなくても、帰る時にはみんな『またね』と笑顔になる。歌は最大の潤滑油です」と話す。

(糸井裕哉)

「青い空を夢に見ながら
オカリナの伴奏と電子ベ
ース音に合わせ、唱歌「た
んぽぽ」の歌声が天井に響
き、参加者約15人の顔には

笑みがこぼれている。

うたごえ喫茶は2008

年8月、大館市大館でレス

トラン「ワンディシエフの

店」を運営する畑沢貴美子

さん(57)が「歌で街を活性化したい」と計画。ゴスペル経験者で「底抜けに明るい」という友人の工藤さんを、進行役に指名して誕生した。

工藤さんのリードはパワフルそのもの。体を左右に揺らし、身ぶり手ぶりも交えながら、人一倍大きな声で旋律を示す。歌の合間にも「飲み物に焼酎いかがですか」「ソリで家まで迎えに行きませ」などと次々と冗談を繰り出し、最後まで笑い声は途切れない。

工藤さんは「カラオケは他人が歌っている間は手持ちぶさた。でも、ここなら順番を待たずに歌える。大勢で歌うから、どんなに音程が外れてもばれないしね」と、にっこり。

*

うたごえ喫茶の魅力について、工藤さんは「参加者間に一体感が自然に生まれ、面識の無い者同士が仲良くなれること」と語る。

ほほえみ
便

大館市釈迦内の菅原勝江さん(76)は12年前に夫を亡くした後、一人で家に閉じこもる日が続いていたが、今は新しい仲間と漬物作りを教えたり、団体旅行をしたりと充実した毎日を送る。「若い人との触れ合いが刺激的。参加者の顔ぶれも毎回違うので、人の輪もどんどん広がって楽しい」と声を弾ませる。

約1年前に夫と姉を相次いで亡くした同市根下戸新町の千葉勝子さん(71)は一時、「さっさと私も死ぬんだ」と思い詰め、体重が約15キロも減った。だが、苦しい胸の内を工藤さんに吐露したことで、心の傷が癒えたという。千葉さんは「一子さんは何でも親身に聞いてくれるし、仲間からは生きる希望をもらえる。歌っている瞬間は本当に幸せなんです」とほほえんだ。

*

元気の塊のような工藤さんだが、一昨年の春、突然股関節の激痛に襲われた。手術後は歩くこともままならず、看護師の仕事も辞めざるを得なかった。当時は数年前から続く長男の不登

校問題にも悩まされていた時期で、涙を流しながら病室でゴスペルを口ずさんで気を紛らわせたことも度々だった。

「社会復帰できるのだからか」と悩み苦しんでいた時、畑沢さんから声が掛かった。「大好きな歌をもう一度、皆と一緒に歌えるなら」と進行役を受諾した。

「私自身も歌で立ち直った人間。だからこそ、苦しい環境に追い込まれた人や寂しさに負けそうな人の痛みが理解できる。ここでは皆が仲間。一人でふさぎ込まず、ぜひ一度、うたごえに顔を出してほしい」。

*

工藤さんらは昨年6月、市内のうたごえグループと共に、大館市でイベントを開催。約350人を集める盛況ぶりを見せた。今後毎年1度、大規模イベントを開催する予定だという。

うたごえ喫茶は毎週日曜日の正午から3時間で出入り自由。ドリンク代500円が必要。問い合わせはワンディシエフの店(0186・42・5577)。